

## 6年「大陸に学んだ国づくり」にプラスワン

(教科書では『小学社会 6上』 p. 22～35)

小学校の歴史学習は「人物・文化財中心」と言われているものの、実際は人物や文化財よりも、出来事について調べ、考える学習が多くなりがちである。教科書で最初に登場する人物は卑弥呼だが、史料が少ないため、記述は短い。具体的な業績などが書かれているのは、聖徳太子からである。

教科書を読んで理解する「受け身の学習」ではなく、児童が自ら調べ、考え、表現する「主体的な学習」にするにはどうしたらよいのだろうか。ここでは、歴史人物を調べるときの視点や、表現方法をプラスワンして、児童の主体性を引き出す方法を紹介していく。

### 1 歴史人物を調べる視点をプラスワンする

前小単元「国づくりへの歩み」では、縄文時代から古墳時代までの生活を、衣食住や道具などに着目して調べ、比較していく。

本小単元からは、人物を中心に据えて、時代像を調べていく。「衣食住」に変わる調べる視点をもたせ、「何を調べるのか」をはっきりさせることで、児童の積極性を引き出すことができる。

次の四つの視点をもたせると、人物について調べつつ、時代像まで理解することができる。

- ①時代背景…その人物の生きた時代はどういう時代だったか
- ②目標……その人物は何を目ざしたのか
- ③業績……目標を達成するために、どんなことを行ったのか
- ④結果……その人物のはたらきによって、世の中はどのように変わったのか

聖徳太子の場合ではこうなる。

- ①時代背景…朝廷では、蘇我氏などの豪族が力をもち、勢力争いをしていた
- ②目標……天皇中心の国づくり
- ③業績……政治の改革を進める
  - ・冠位十二階をつくり、家柄にとらわれずに、能力のある豪族を役人に取り立てた
  - ・十七条の憲法を定めて、役人の心構えを示した
  - ・遣隋使を送り、進んだ政治のしくみや文化を取り入れた
  - ・法隆寺を建てるなどして、仏教をさかんにした
- ④結果……聖徳太子の死後、蘇我氏の力はますます強くなり、天皇をしのぐほどになったが、天皇中心の政治を実現するために、中大兄皇子や中臣鎌足が、645年に蘇我氏を倒した

これらは、ほとんど教科書に書かれていることである。

まず、調べる視点をもたせてから、教科書を読ませていく。そうすることで、児童は四つの視点がどこに書かれているかと、情報を探しながら教科書を読むようになる。この四つの視点は、この小単

元だけでなく、どの小単元でも活用することができる。

## 2 調べたことを表現する方法「人物の木」をプラスワンする

教科書 p. 25 に、児童の作品例として「人物の木」が紹介されている。これは、調べたことを記録すると同時に、調べたことの関係をも「見える化」する方法として、「人物を調べる四つの視点」を木の形に配置したものである。「時代背景」を地面に書き、「目標」を幹に、「業績」を枝に、「結果」を葉に書くことで、歴史人物の全体像を構造的にとらえることができるようにした。

この方法で表現することで、歴史的事実を視覚的に関係づけてとらえることができるようになる。また、できるだけ多くの内容を書き込もうと、それまで以上に一生懸命調べようとする児童の姿も見られた。児童にとって初めての表現方法なので、イメージをしやすくするために、モデル作品を見せるとよい。



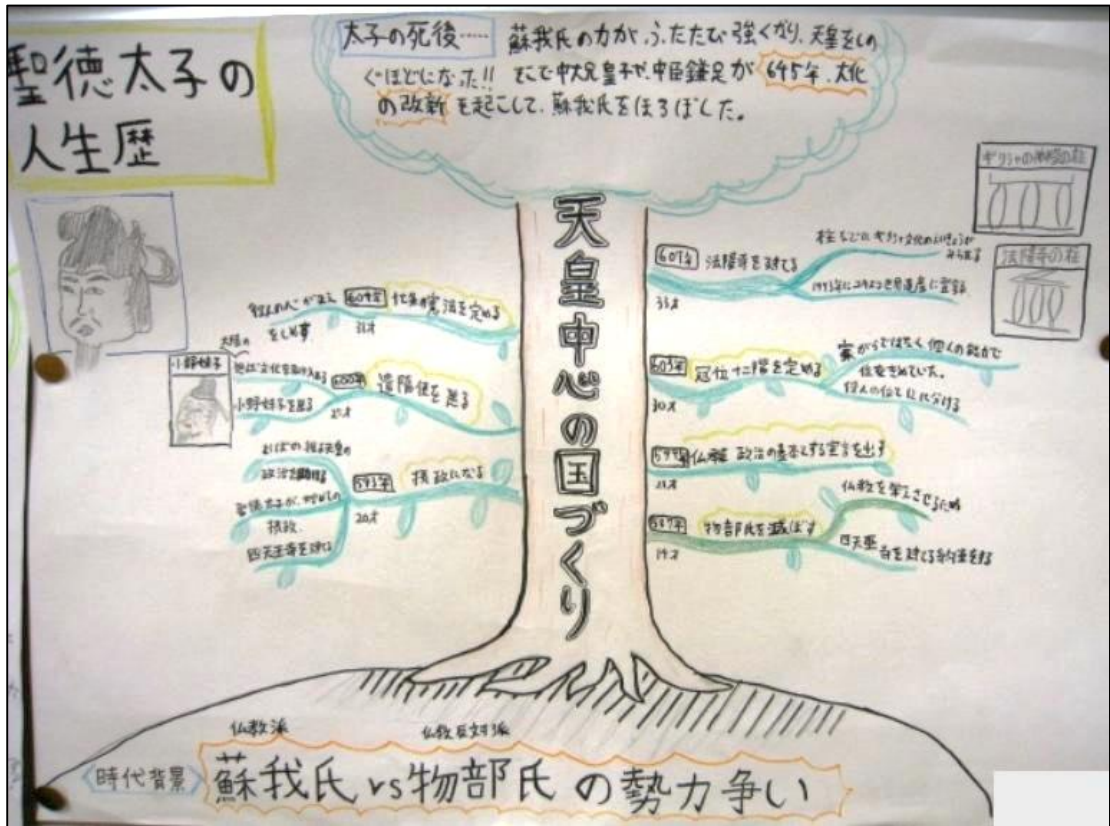
左は、見本として教師が書いた作品である。枝の部分には、マインドマップの手法を取り入れ、枝分かれさせながら、具体的な事柄を書き込んでいった。

このようなモデルがあると、児童は学習の見通しがもてる。いつでも参考にできるように、教室の壁に掲示しておくことで、自分一人の力では学習を進めることが難しい児童でも、最後まで調べ、表現することができる。

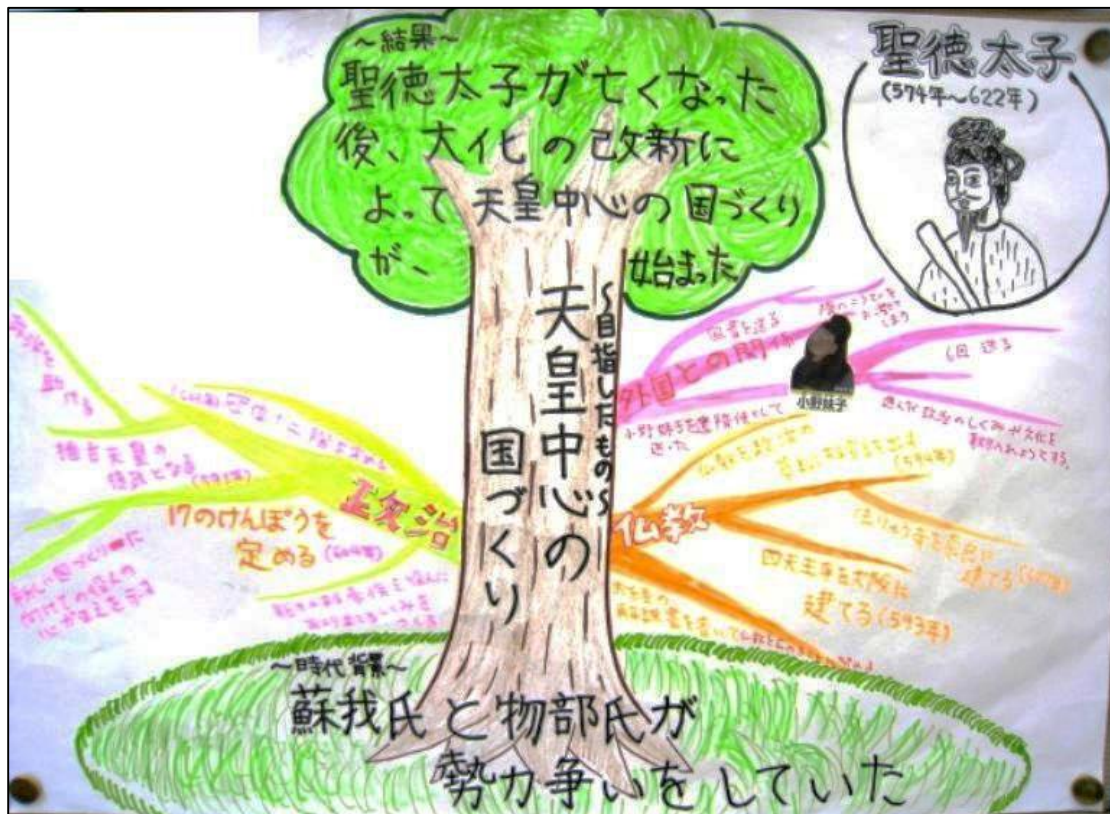
初めてかくときには、2時間程度の授業時間が必要だが、2回目以降は、調べて表現するのは授業1時間だけにして、続きは家庭学習で行うこともできる。

次ページから、児童の作品を紹介する。どの児童の作品にも、独創的な部分やこだわりの部分がある。

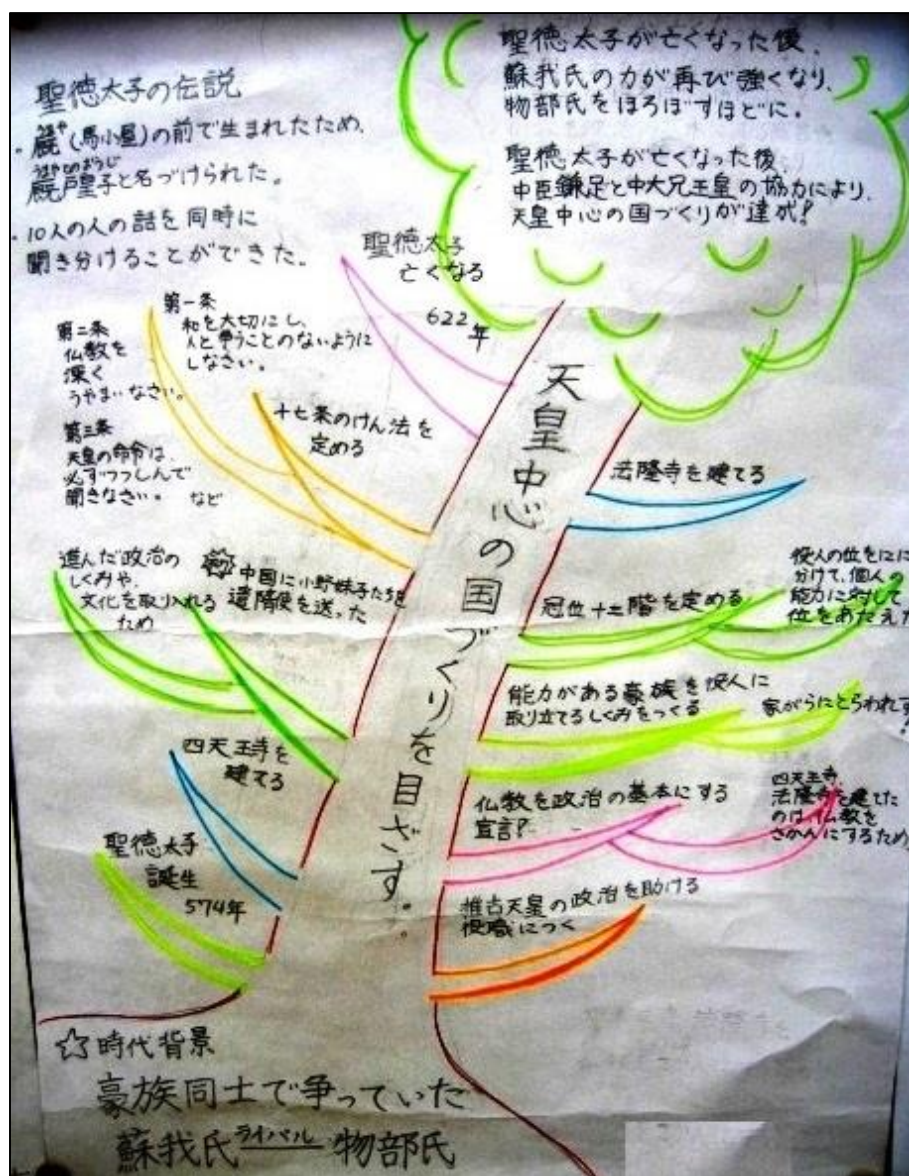
タイトルに「人生歴」という言葉を使っているのは、この児童が独自に考えたもの。枝のかき方も、木に近いものにしてしている。



太い枝を「政治」「仏教」「外国との関係」の三つにまとめている。



この児童は、聖徳太子のエピソードを書き込んでいる。木を斜めにかくなど、独自の作品にしたというこだわりを感じることができる。



- よりよい作品にしたいという児童に対しては、次のような助言をするといい。
- T) 木に鳥をとまらせて、「人物に対する自分の考え」をさえずらせてごらん。
  - T) 背景に雲をかき、「後世の人の評価」をかきこんだらどうか。

教科書以外の資料も使って、できるだけ多くの内容をかき込もうとする児童も出てくるだろう。その他にも、イラストをかき込むなど、独自の工夫をしていよと話すとき、子どもたちは楽しみながら、主体的に取り組むようになっていく。画用紙にかいたものを教室の壁に掲示すると、自然に学び合いが生まれる。普段はあまり掲示物に関心を払わない児童も見ていることが多かった。仲間のよさに学ぼうとする姿勢を学年の初期の段階で育てることができるだろう。（2016年4月）

あらし げんしゅう  
**嵐 元秀**  
 東京都の公立小学校教師。教師歴 28 年。  
 楽しみながら、調べ・考え・表現する力が高まっていく  
 社会科授業を目ざして研究・実践をしている。